
灯火

夕焼け

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

灯火

【Nコード】

N93160

【作者名】

夕焼け

【あらすじ】

灯火をひとつ、みつけたよ

痒い痒い痛い痒い痛い痒い痛い痛い痛い
さつき夜歌いになんて行つたせいだ。

肌の湿度ごっそりもってかれた。

せっかく休刊日なのに、ベッドに入っても眠れない。

寝ても、形容しがたい痛痒さですぐ目が覚める。

もう何時間もずっとその繰り返し。

もうすぐ空が白んでしまう。

全身、悪寒がするような痛痒さだ。

手が二つしかない事がもどかしい。

この季節はいつもそうだ。

ギトギトになるくらい保湿クリーム全身に塗りたくろうが、風呂で皮膚ゴリゴリ削ぎ落とそうが、かゆみと痛みが全くおさまらない。

10月の後半くらいから、肌の状態が急激に悪くなる。

全身の皮膚が分厚くなって、逆剥けて、熱を持って、冬の間中ずっ

と不快な痒みがおさまらない。

適温の風呂に入ってる間だけだ、落ち着くのは。

眠れない。

今日も眠れない。

痒い。

保湿クリームを塗ろうと服をまくれば、怪物みたいな肌が露になる。

どろりとした眠気の中で、痒みとおぞましさがいい具合に相俟って、結構誇張じゃなくて死にたい気分になる。

愛じゃなくても、恋じゃなくてもいいんだ。

本当に小さいやつでいいんだ。

君にとつての余分を、ほんの気まぐれで差し出してくれるだけでいいんだ。

君だつて相応に色々背負つて死にたくなる事くらいいっぱいあると思ふんだよ。

そつと消えちまいたくなる夜だつて無論あると思ふんだよ。

すぐく手前勝手に傲慢で利己的な理由で、僕は君に消えないで欲しいつて今願つてる。

こんなふうには眠れない夜は、君が明日笑つてくれるかもしれない事だけが灯火なんだ。

その笑顔を向ける相手が僕じゃなくてもいいんだ。

明日君がこのわけのわからない球体のどこかで、ほんのちよつとした事で笑つてくれたら、それを想像するだけで、僕はまだどうにか僕を諦めないでいられる。

痛みも痒みも状況も一向に良くはならないけど、それらに耐えることから君が授けてくれたんだ。

投げ出したくてしかたない全てを、しょうがないからもう明日まで引きずつてこうつて思える強さを与えてくれたのは、他にもない君なんだ。

僕は弱虫だから、逃げも隠れもする。

言い訳もするし、姑息な手段も使うし、卑屈にもなるし、泣き言も言う。

でも、自分の命を自分で終わらせない事、最後の最後の最後、ひとつだけ諦めない事だけ約束する。

暗闇が永遠に終わらなくなっただけいい。

それでもそこを駆け抜ける勇気を君がくれたんだ。

地獄の最下層でだって踊ってみせるよ。

君が笑ってくれるなら。

発狂する程度の事は、別に気に病む程深刻な事じゃないんだ。

君が無邪気に笑って、その際にこの胸の内側で起こる天文学的な変化に比べれば、こんなのは本当に些細な事なんだよ。

だから、やっぱり今日もありがとう。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9316o/>

灯火

2010年11月15日09時13分発行